

平成28年度行政評価 施策評価シート (平成27年度実績)

施策名 公共交通の充実

施策コード 060101

1. 施策の担当	
主管課	都市整備部 道路公園課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第6章 心地よく、くつろぎを感じるまちづくり (快適・憩い)	第1節 道路・交通
	施策	公共交通の充実	

**基本方針**  
 ・市民ニーズに応じた交通手段の確保とその利便性の向上により、人や環境に優しい公共交通の充実を図ります。

**現況と課題**  
 ・自動車交通への依存度が高い一方で、高齢化社会や環境面からも鉄道やバスなどの公共交通機関の重要性が見直されています。  
 ・誰もが安心して自由に移動できるまちづくりを実現するために、事業者との連携のもとに、鉄道、路線バス、コミュニティバスなどによる公共交通のネットワークの充実が求められています。  
 ・ユニバーサルデザインの考えに基づき、高齢者や子ども、障害のある人をはじめ、すべての市民が安全に移動できる交通環境づくりの実現が求められています。  
 ・コミュニティバスの利用者の多くが高齢者や障害のある人等の交通弱者です。そこでこのような交通弱者の方々のさらなる外出促進、公共施設の利用促進を通じた「まちの活性化」を目的とし平成27年10月より無料化を実施。

**施策目標**  
 対象 (誰を、何を、どこを)  
 市民

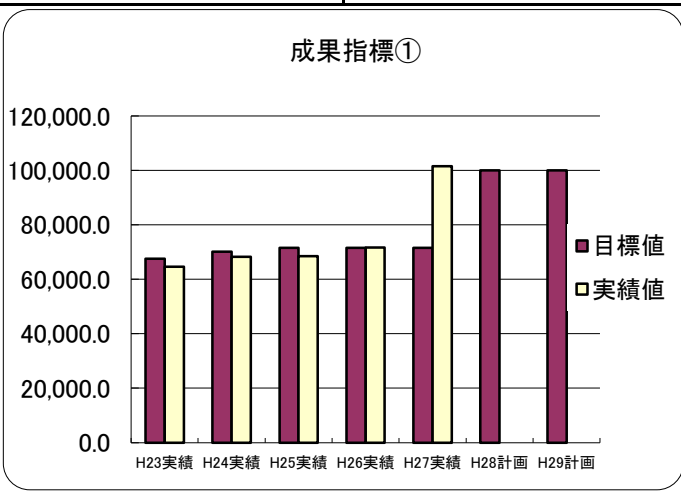
**意図 (どのような状態にしたいのか)**  
 鉄道とバスの連携強化により、利便性の確保を図り、市民・利用者にとって、身近で使いやすい交通手段としてしていきます。

3. 市民ニーズ							
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
満足度 (偏差値)		41.8					
重要度 (偏差値)		45.9					

4. 施策にかかるコスト								
コストの内訳	人件費	千円	H26決算	H27決算				
	事業費		940	1,022				
	フルコスト		32,096	36,945				
財源内訳	国庫支出金	千円						
	府支出金		0	2,508				
	市債		0	0				
	その他		0	0				
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		33,036	35,459				
	一般財源2 (=直接事業費-特定財源)		32,096	34,437				

5. 施策の成果指標							
① 成果指標 1		コミュニティバスの年間利用者数					
項目	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28計画	H29計画
目標値	67,600.0	70,200.0	71,500.0	71,500.0	71,500.0	100,000.0	100,000.0
実績値	64,648.0	68,266.0	68,463.0	71,655.0	101,593.0		
達成度	95.63	97.25	95.75	100.22	142.09		
指標設定の根拠			目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景		
この人数が増えているかを把握することで、地域住民のニーズに合致した事業展開ができていくかわかる。			近年、利用人数は減少傾向にあるが、現状維持を目標値として設定した。		平成27年10月より運賃の無料化を実施したことにより大幅に利用客が増加した。		

図表



6. 施策の事後評価			
	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) <b>4</b>	平成24年度に「泉佐野駅西口前」バス停を新設したため、利用者数が増加した。平成27年10月より運賃の無料化を実施したことにより更なる利用客の増加が図られた。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) <b>1</b>	満足度が平成19年度47.8から平成24年度41.8と低下した。運行地域の拡大、運行時間帯の拡大、双方向での運行等の要望がある。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) <b>3</b>	路線バスが廃止されたことによる、交通手段を奪われた交通弱者（障がい者、高齢者等）の移動手段を確保する。コミュニティバスの北回りに平成24年4月から「泉佐野駅西口前」バス停を新設した。平成27年10月より運賃の無料化を実施。
	合計点	(10点中) <b>8点</b>	
	総合評価	<b>B</b>	市民生活に密着した交通手段として、また交通弱者の交通手段の確保、公共交通機関空白地域の解消を図る観点から、重要な役割を担っている。
二次評価（政策推進課・行財政管理課による評価）		<b>B</b>	観光周遊バスの年間利用者数を成果指標に追加すること。
三次評価（理事者による評価）		<b>B</b>	観光周遊バスの年間利用者数を成果指標に追加すること。7人コミュニティバス無料化に伴い指標の設定の変更が必要である。

7. 施策を構成する事務事業							
	予算コード	事務事業名	H27年度決算額			H28年度予算	一次評価
			人件費	事業費	一般財源		
1	01009700	コミュニティバス事業	511	33,939	31,431	39,074	B
2	01009710	路線バス運賃助成事業	511	3,006	3,006	690	B
合計			1,022	36,945	34,437	39,764	